

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：教務部	担当部局：教務部
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.4 成果	
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）	
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。	
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生の学習を振り返ることのできるシステムをICTを活用して開発する。	→学習管理システムの構築	C	C	/	/	/
2. 学生の学習成果を測定できるシステムをICTを活用して開発する。	→成果測定システムの構築	C	C	/	/	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし	/	/	/	/	/
なし	→なし	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
	(説明) 現状では、教育成果を測定する仕組みが整っていない。留年率であるとか、就職決定率といった数値から成果を推定することしかできない。今後、学習成果を測定するシステムや学生が学習成果を自己評価するシステムを開発する必要がある。評価を行うためには前提となる指標（学位授与方針やKG学士力で求められる能力にもとづくカリキュラムマップなど）を整備することが必須となる。これらのシステムは、大学新中期計画の施策により、高等教育推進センターが導入しているLMS（学習支援システム）を利用して実現を図る。また教育成果を測定するうえで必要な情報として卒業生の評価があり、現在卒業生へのアンケート調査を6年ごとに実施している（2011年度が実施年となっている）。ただ、アンケートの実施方式については検討の余地がある。卒業生の就職先での評価については、キャリアセンターの協力が必要となる。今後の整備に関しては、大学情報環境検討プロジェクトが昨年引き続き活動を続けており、高等教育推進センターが担当部局となっている大学新中期計画（現在は素案）の実施計画化に向けて検討を続けていくこととなっている。この施策には、ポータルサイトの構築、eポートフォリオと学習到達度自己評価システムの構築、e学生台帳の導入といった項目が含まれている。
小項目6.4.2	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
	(説明) 卒業に必要な単位数を学部ごとに学則に定めており、事務局から成績、学籍上の判定資料を提供し、学部教授会で学位授与を決定している。学位授与の手続きとしては適切である。7月以降各学部の学位授与基準が明示される。今後、学位授与判定にあたって、この基準を満たしていることが条件になるが、基準と教育課程（授業科目の配置、卒業必要単位数の配分等）の整合性を検証していく必要がある。
その他	

《評価指標データ》

各学部における学生の進路状況
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
 KGP Sの修士学位・専門職学位の授与数
 3年卒業の適用者数
 ジョイント・ディグリーの授与者数
 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
☆小項目6.4.2	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
☆小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	教育成果を測定する仕組みの整備、学習成果を測定する指標、システムなどの開発、学生が学習結果を自己評価できるシステムの開発、等が不可欠。
☆小項目6.4.2	学位授与基準と教育課程（授業科目の配置、卒業必要単位数の配分等）の整合性の検証を行うこと。
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	副学長のもとで大学情報環境検討プロジェクトにおいて、eポートフォリオと学習到達度自己評価システムの構築について検討が進められ、新中期計画の施策として実施計画化を推進する。
☆小項目6.4.2	各学部の学位授与基準が7月には整備される予定であり、その後、カリキュラムマップの整備等をとおして、教育課程との整合性を検証していく。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○中項目6.4は、どこの大学でも最も頭を悩ませている項目と言っても過言ではありません。難しい点もあり、早急に実現できる課題ばかりでもないのですが、「改善方策」等が具体的に考えられていますので、今後着実に実施していくことが望まれます。

【学内委員】

○全体として教育の成果をはかるための条件整備の段階です。とりあえずKG学士力や各学部のDPの内容を明確化し、教育成果を測定する仕組みを整えなければ、前に進みません。

○教育の成果を適切に示す指標の発見が焦眉の問題であると言えます。それが確定しないと教育成果を測る仕組みである成果測定システムの構築は不可能です。可及的早く有用な指標を発見・明示することが必要です。

○学習成果を測定するシステムや学生が学習成果を自己評価するシステムの開発に関し、いつを目標年度にするか定めた上で進捗管理が必要だと思われます。

○丁寧で誠実な記述です。

○大学基準協会の留意事項では、小項目6.4.2の基盤評価は、「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」としています。この視点での記述が求められます。

○学習成果を測定する仕組みの構築に取り組みられていることがうかがえます。それをどう教育内容・方法等の改善に結びつけていくかが今後の大きな課題であり、そのためのシステムの構築です。

○アンケートの実施方法については検討の余地がある、とされています。改善すべき事項にあげる必要はありませんか。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・現状の説明は適切に行われていますが、学位授与の方針、また、それに基づく教育目標の明示がなされていない中での改善は限定的です。

・学位授与基準は卒業に必要な単位を揃えることを意味するものではありません。ディプロマ・ポリシーの明確化と共に教育の質保証を伴った適切性を担保する方策の策定を期待します。

・学位授与の手続きは適切に行なわれていますが、危機管理の側面からチェック体制の強化について考える余地はありませんか。

・異議申し立て制度についての説明をお願いします。

・学位授与基準は成績の厳格性が前提となります。

・学習管理システムの構築と成果測定システムの構築に向けて努力が行われることは多としますが、いかなる指標が基礎とされるかということを確認する必要があります。結局、そのことは教育目標を何によって表すかということに還元されるからです。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に向けている」

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあつては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

・卒業・修了の要件は履修心得に教育課程表を記載し、学生が自己責任で判定することを原則としている。ただし、履修登録後卒業判定作業を行い、誤認により卒業要件を満たしていない学生に対しては、履修修正を促す学部もある。次期学生システムリプレイスに際しては、成績通知で卒業・修了単位の修得状況を一覧表示するなど、学生への利便性を図ることを検討している。

★卒業生アンケートは、当初卒業生を調査対象に、本学の教育やスクールモットーについて客観的な分析を行うとの趣旨から始まった。本年は6年に一度の実施年となるため、複数部課で実施委員会を組織し、調査項目の再検討が予定されている。

・異議申し立て制度について一成績の異議申し立ては成績発表後所定期間と様式を定め開講学部等で受付けている。卒業判定に対する異議申し立て制度は学部では設けていないが、成績発表時に学生は自己判定でき、その後の卒業生発表と齟齬があれば卒業式までに照会することが可能である。